

日本版NCAAに係るこれまでの経緯

平成28年4月

大学スポーツの振興に関する検討会議（座長：文部科学大臣）スタート

平成28年6月 日本再興戦略2016

：平成28年度中に設置に向けた方向性について結論を得る

8月

中間とりまとめ（日本版NCAAについてはタスクフォースで検討）

平成29年3月

最終とりまとめ（平成30年度中の創設を目指す）

平成29年6月 未来投資戦略2017

：平成30年度中の創設を目指す

平成29年9月28日

日本版NCAA創設に向けた学産官連携協議会 発足
（日本版NCAAの制度設計、機運醸成へ）

平成30年度中 日本版NCAA創設（目標）

<1> 大学スポーツの振興に向けた基本的考え方（方針）について

大学スポーツ振興の意義

- 大学におけるスポーツの振興には、国民の健康増進や地域・経済の活性化等に資する可能性を有するなど、公共的役割を担う可能性
- 大学には、アスリートや指導者等の貴重な人材、体育・スポーツ施設が存在

大学スポーツ資源の潜在力を発揮するための方向性

- スポーツの社会的効用を理解することは社会発展の促進に資することから、大学においてスポーツ分野を学ぶことが重要
- 大学や学生競技連盟を核とした大学横断的かつ競技横断的統括組織（日本版NCAA）の創設に向けた議論が必要

<2> 個別テーマの目標・達成に向けた取組について

1. 大学トップ層の理解の醸成

大学が部活動を含めて大学スポーツに関与することを推進するため、大学トップ層の理解の醸成を図ることが重要

2. スポーツマネジメント人材育成・部局の設置

各大学におけるスポーツ分野の取組を戦略的に推進するため、スポーツ分野を一体的に行う部局や当該部局を担う人材（大学スポーツ・アドミニストレーター）の配置を進めることが必要

3. 大学スポーツ振興の資金調達力の向上

する・観る・支えるの好循環を大学スポーツでも形成し、その振興のための資金調達力を向上することが重要であり、民間資金等を活用した大学スポーツ施設の充実を図るほか、大学部活動の管理体制の明確化と会計等の透明性を確保することが重要

4. スポーツ教育・研究の充実や小学校・中学校・高等学校等への学生派遣

大学体育の充実と学生スポーツの環境の整備、スポーツ科学研究の促進と成果の社会還元、学校への学生派遣を推進することが必要。

5. 学生アスリートのデュアルキャリア支援

学業とスポーツを両立するための修学上の配慮をするとともに、キャリア形成支援を行うことが重要

6. スポーツボランティアの育成

大学におけるスポーツボランティアへの関心を一層高め、大学が組織的に学生の活動の機会を拡充することが必要

7. 大学スポーツ資源を活用した地域貢献・地域活性化

総合型地域スポーツクラブ等との連携や合宿等を活用したスポーツツーリズムの推進、スポーツ施設の開放を進めることが重要

<3> 大学横断的かつ競技横断的統括組織（日本版NCAA）の在り方

- 日本版NCAAの在り方について、検討会議の下にタスクフォースを設置し検討

<4> 今後の進め方

- 「学産官連携協議会」を設置し、日本版NCAAの具体的な制度設計を進め、平成30年度中の日本版NCAAの創設を目指す。
- 関係者の意識の醸成や大学内の体制整備、大学間・学連間の連携、スポーツ団体との連携の強化を図る。

大学スポーツの振興に関する検討会議タスクフォース とりまとめ概要

～日本版NCAAの創設に向けて～

現状・課題

- 社会的諸課題への解決を求められる大学において、人格の形成や地域コミュニティの形成等に寄与する大学における運動部活動等のスポーツに期待される役割は大きい。また、「観る」スポーツとしての可能性も高い。
- 運動部活動は、学生を中心とする自主的・自律的な課外活動とされ、大学の広報等に寄与する一方、大学の関与は限定的な場合が多い。
- 大学の競技団体（学連）は、競技・地域ごとの組織で、法人格を有しない組織も存在。

⇒ **学生アスリートの学業環境への支援、運動部局の運営**（指導者や資金の確保、責任体制、事故・事件時の対応）、**大学の教育・研究との連携、学連間の連携**等の課題が山積み、抜本的な改革が求められている。

大学スポーツ全体を総括し、その発展を戦略的に推進する組織が必要

日本版NCAAの在り方

スポーツを通じた**学生の人格形成**を図るとともに、母校や地域の一体感を醸成し、**地域・経済の活性化や人材の輩出に貢献する**

- 理念**
- **学生アスリートの学業環境の充実**を図るとともに、学業とスポーツの両立を目指し、**大学スポーツの発展を実現する**
 - 事故防止など運動部活動の**安全性を向上**させ、本人や関係者にとって安心できるものとする
 - 我が国のスポーツの文化、歴史を尊重しつつ、大学、学連等が協調・連携するための**プラットフォームとしての役割**を担う
 - 「観る」スポーツとしての価値を高め、**収益を大学スポーツに還元する好循環**を創造し、我が国全体の**雇用の創出、経済成長につなげる**
 - 競技種目、大学の立地、性別、障害の有無などにより不利益を被ることがないように取り組む

【期待される役割】

- ① 学生アスリートの育成
（学業成績要件の統一、デュアルキャリア支援、インテグリティ教育等）
- ② 学生スポーツ環境の充実
（スポーツ活動への支援、保険制度の充実、不祥事・勧誘等に係るルール作り等）
- ③ 地域・社会・企業との連携
（地域貢献活動の総括、会計等のガイドライン整備・相談窓口、権利関係の調整等）

【組織体制】

- 民間の法人として設立し、民間資金による運営を基本とする。
- 原則大学、学連の自主参加（任意）とする。
- 大学、学連が加盟のメリットを実感できるものとする。
- 大学、学連等の従来の活動を阻害せず、調和のとれたものとする。
- 安定した収入源を得るため、様々な手法の開拓を図る。
- 当初は実行可能な分野、規模からスタートする。

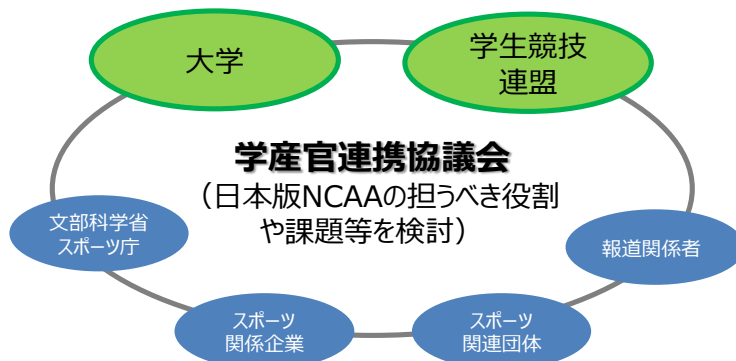
★最終とりまとめ全体については、下記よりご覧いただけます。

http://www.mext.go.jp/sports/b_menu/shingi/005_index/toushin/__icsFiles/afieldfile/2017/03/10/1383246_1_1.pdf

我が国の大学スポーツの持つ潜在力（人材輩出、経済活性化、地域貢献等）を生かすため、大学スポーツに係る体制の充実を図る必要がある。そのため、適切な組織運営管理や健全な大学スポーツビジネスの確立等をめざす大学横断的かつ競技横断的統括組織（日本版NCAA（National College Athletic Association））の創設に向けて、**日本版NCAAの具体的な在り方について検討する学産官連携の協議会を開催**するとともに、**大学スポーツの活性化に全学的体制で取り組む各大学において、専門人材の配置や先進的モデル事業を展開**する。

① 日本版NCAAの組織の充実

大学スポーツを全学的に推進する体制を整える大学や学生競技連盟を中核として、関係者による学産官連携協議会を設置し、我が国を取り巻く環境に合致した日本版NCAAの在り方をとりまとめる。



② 大学スポーツ振興の推進

大学スポーツを全学的に推進する体制を整える大学に対して、「大学スポーツ・アドミニストレーター」の配置等のスポーツ活動を支援し、大学横断的かつ競技横断的統括組織（日本版NCAA）の中核となる大学群の形成につなげる。

大学スポーツ・アドミニストレーターの配置

各大学において全学的にスポーツ分野の取組を一体的に行う部局を持つ大学に、大学スポーツのブランド力向上を担う大学スポーツ・アドミニストレーターを配置する。

企画立案、コーディネート、資金調達を担う

収益力の向上に向けた取組	学生アスリートのキャリア形成支援	大学スポーツを通じた地域貢献、地域活性化	スポーツ教育の推進	スポーツボランティアの普及啓発
■健康・食・観光・ファッション等の多分野と融合したスポーツイベントの開催等。	■学生アスリートへの学修支援やキャリア形成に配慮したプログラムの実施。	■自治体や地元企業、スポーツ団体、地域住民等と連携した大学スポーツ施設の開放の在り方に関する連携体制の構築。	■小中高の体育活動や運動部活動を支援する学生の派遣やプログラムの開発等の支援体制の在り方の実践研究。	■スポーツボランティアの育成と普及啓発のための研修会の実施等。

大学スポーツの活性化
大学横断的かつ競技横断的統括組織（日本版NCAA）の創設

日本版NCAA創設に向けた学産官連携協議会

- 大学、学生競技連盟、産業界等が連携して具体的制度設計を進め、平成30年度中の本版NCAAの創設を目指す。
- 個別の検討テーマについては、3つのワーキンググループを開催して議論を進める。

(1) 学業充実ワーキンググループ

【検討テーマ】

- ・学生アスリートへのスポーツと学業の両立の必要について
- ・学業とスポーツの両立のための仕組み作りについて
- ・キャリア形成支援について 等

(2) 安全安心ワーキンググループ

【検討テーマ】

- ・安全性の向上に向けた関係者それぞれの役割とガバナンスの整理
- ・安全性に関する最低限の担保
- ・安全安心プログラムの開発、提供、講習
- ・安心してスポーツに取り組むための指導者の育成や管理
- ・医療との連携の在り方 等

(3) マネジメントワーキンググループ

【検討テーマ】

- ・日本版NCAAが担うべき役割について
- ・日本版NCAAが提供するメリットの検討
- ・加盟要件の整理
- ・自立的組織とするための資金調達方法
- ・運営に必要な人員、組織 等

第1回協議会

【講演者】

- ・永田 恭介（筑波大学学長）
- ・鎌田 薫（早稲田大学総長）
- ・渡辺 夏彦（一般社団法人ユニサカ代表理事）
- ・鶴岡 秀樹（ミズノ株式会社常務執行役員）
- ・大知 久一（三井住友海上火災保険株式会社取締役常務執行役員）
- ・鈴木 大地（スポーツ庁長官）



第1回学産官連携協議会の開催
(平成29年9月28日)

学産官連携協議会の開催について

平成28年9月

12月

平成30年3月

第1回 総会 (9.28)

- 学産官からの講演
- WGの設置

学業充実ワーキンググループ

【第1回】H29.10.13
学生アスリートを巡る学業環境が抱える課題

【第2回】H29.11.13
在学時の学業支援・対策について

安全安心ワーキンググループ

【第1回】H29.10.11
学生アスリート等が安全・安心に活動するために、大学・指導者・学生等の関係者がなすべきことについて

【第2回】H29.11.6
安全安心に関する統一的な予防策について

マネジメントワーキンググループ

【第1回】H29.10.23
日本版NCAAを自立的な組織とするために各主体が果たすべき役割

- 大学側のメリット
- 具備すべき役割・機能

【第2回】H29.11.20
NCAAを活用した大学スポーツの活性化に向けた具体的施策

- 集客強化の仕組み
- 課題の洗い出し

第2回 総会 (12.28)

- 各WG中間報告
- 関西地方の大学との意見交換

【第3回】H30.1.11
大学入学前・卒業後の観点から取り組むべき事項について

【第3回】H30.1.12
保険制度等事後の対応策について

【第3回】H30.2.2
必須機能維持を前提とした日本版NCAAの組織運営方針

- 組織構造
- 資金政策

【第4回】H30.3.9
目指すべき将来像と来期以降のロードマップ案(予定)

- 設立趣意書
- 残課題の整理

とりまとめ

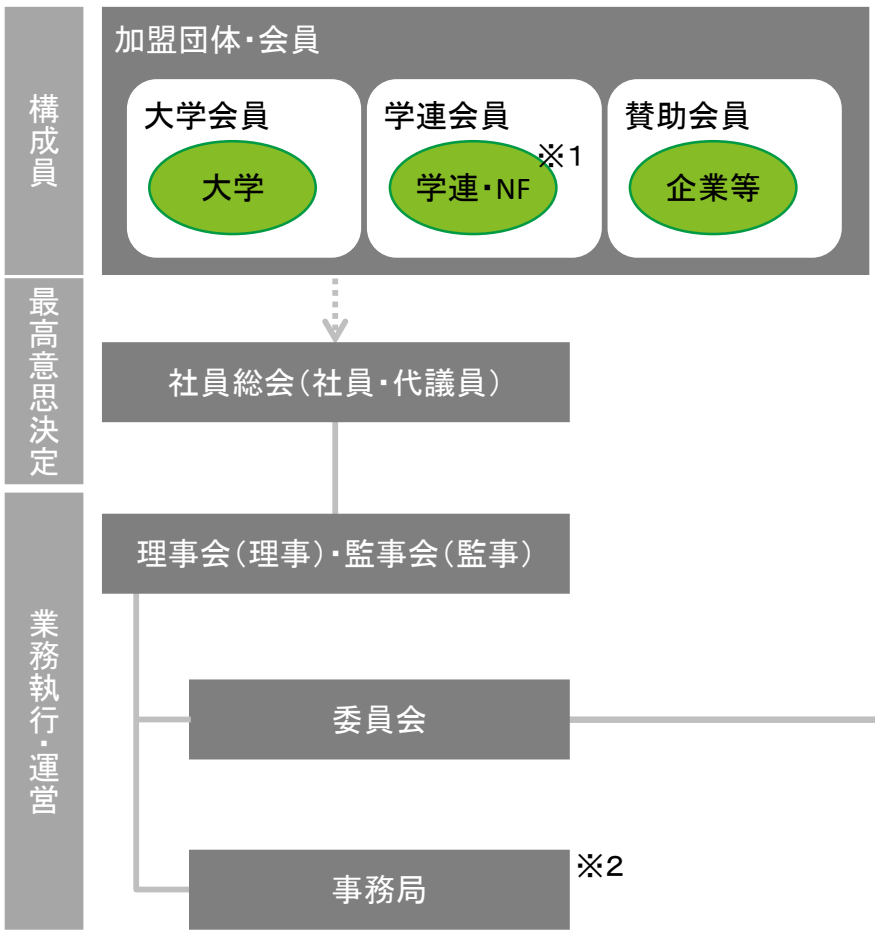
第3回総会 (3.26)

- 設立趣意書案の提示
- 今後のロードマップ案の提示
- 設立準備委員会メンバーの公募について

※予定

日本版NCAAの組織体制（案）

日本版NCAA（仮称）



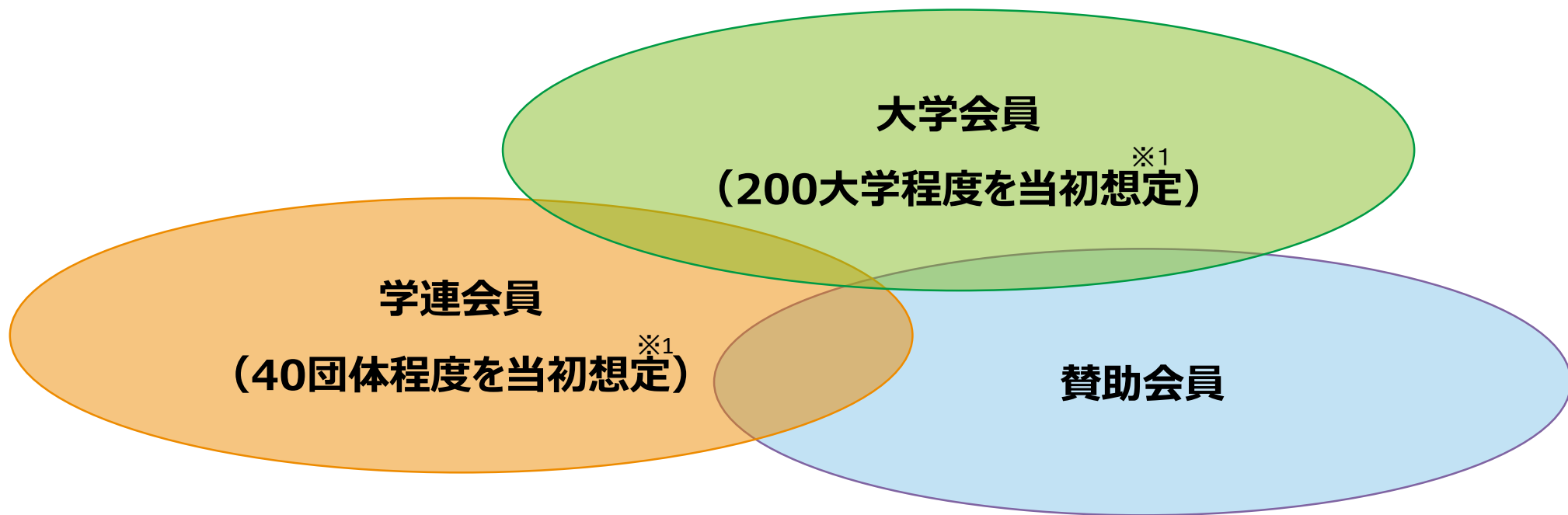
各委員会の主な短期的機能(案)

- | 機能領域 | 主な短期的機能(案) |
|------------|---|
| 学業充実 | <ul style="list-style-type: none">■ 入学前からの動機づけ → 高校・高体連との意識合わせ■ 学修機会確保 → 会場の確保支援、試合日程の調整■ 指導者の資質・能力向上 → 指導者向けセミナーの開催■ 成績管理・対策 → 年間取得単位数の基準策定■ さらなる動機づけ → 各大学のベストプラクティスの収集・共有■ キャリア支援 → 大学キャリアセンターとの連携 |
| 安全安心・医科学 | <ul style="list-style-type: none">■ 情報の集約化 → 事故情報の収集体制構築・共有、報告徹底■ 共通ルールの設定 → 共通ガイドライン徹底、ガイドブック作成■ ガバナンスの体制構築 → 優良取組事例の横展開■ 指導者の意識向上 → ライセンス制度導入、研修・講習の実施■ 保険制度の活用 → 加入状況確認、リスク情報分析■ ハラスメントや暴力等に関する相談・対応体制の構築 |
| 事業・マーケティング | <ul style="list-style-type: none">■ 大会レギュレーションの整備 → 大会日程調整、競技横断的対抗戦推進、大会共催■ 個別データの管理・活用 → 情報収集・データベース化、大学スポーツの調査・分析■ シェアードサービスの提供 → チケット・グッズ等販売の共通サイトの構築、肖像権管理・会計ルールのガイドライン整備■ 広報戦略の策定・展開 → HP等の活用 |

※1 学連会員は、競技を代表して、各全国学生競技連盟が主に加盟することを想定しているが、競技によっては全国学生競技連盟がない等の場合には、各競技団体が加盟することも可能。

※2 事務局には、学生も参画できることとする

日本版NCAAの構成員及び加盟の要件（案）



会員の加盟要件 … 設立趣意書案に示される日本版NCAAの理念に賛同すること※2

【設立趣意書案の主な記載事項(案)】

- 大学スポーツ安全性の向上
- 学業とスポーツの両立
- スポーツ分野の振興に係る学内の体制整備を目指す(スポーツ専門部局の設置、専任職員の配置等)

※1 平成29年大学スポーツの振興に関するアンケート(スポーツ庁調べ)をもとに想定(日本版NCAAに加盟したいと回答した大学は600大学中222大学、全国学生競技連盟は38団体の22団体(58%)。学生競技連盟については、日本体育協会加盟競技(59団体)の58%が加盟した場合に換算)

※2 加盟の要件、設立趣意書については、来年度設置される日本版NCAA設立準備委員会で決定する予定

学業充実委員会が取り組む事項（案）

			← 短期 長期 →		
			日本版NCAAの具体的取組		
入学前	一般入試学生	スポーツ活動に重点を置いてさえいれば進学可能であるという風潮の是正	高校・高体連に向けた学業とスポーツの両立の重要性の発信・意見交換	大学入試早期合格者向けの学業プログラムの提供	入学前の学力確認の徹底 （点数に応じた措置は実施しない） *大学入学初年次で成績措置は行わず、大学1年時の成績を加味して2年目以降の措置を実施を検討（在学中の対処と連動） *文部科学省では大学入試に関する新たなルールの設定（平成32年度から適用予定）
	推薦入試学生		学業と競技の両立等に関する保護者・高校向けセミナー開催		
在学时	学業・競技への意識は高いがスポーツ活動により学修の機会の確保が困難な学生	- 大会・練習日程の調整 - 指導者の理解醸成	授業との重複を避けるための試合日程の調整や会場の確保を支援	共通eラーニングプラットフォームの整備	プラットフォームを活用した大学と指導者のマッチング機能の整備
	競技活動に偏重し学修に対する意識が低い学生		学業と競技の両立のための指導者向けセミナーの開催	指導者向けライセンス制度導入（既存制度を活用を想定）	
	学業・競技への意識が高く双方に取り組める環境がある学生		年間取得単位数の基準を策定	各大学における取組状況の把握・共有等	
卒業後	アスリート就職	表彰制度等による学業・競技ともさらに伸ばす取組の創設	学業・競技・地域貢献等の両立が重要であることの発信 各大学のベストプラクティスの収集・共有	学業成績や地域貢献活動等に対する表彰制度の実施	表彰制度に奨学金等報奨制度を付加
	一般就職	セカンドキャリアを見据えた教育の提供	大学キャリアセンターとの連携による提供すべきサービスの具体化	セカンドキャリアを見据えたキャリアデザインの作成と適宜の見直し支援	卒業生等の就職実績や就業後の活躍の企業への発信・PR
		企業とのマッチングや情報提供		リーダーシップ開発プログラムの提供	

安全安心・医科学委員会が取り組む事項（案）

		← 短期		長期 →	
予 防	情報の集約化	事故や事件(ヒヤリ・ハットを含む)の情報収集体制の構築、関係者との共有 ※競技団体の対策、医学会での取組、保険を通じた蓄積など大学関係に留まらない情報の収集共有と対策の充実を目指す			
	安全安心にかかる共通 ルールの設定	生死・重い後遺症を引き起こす重大事故を防ぐ ための共通ガイドラインの徹底 ＜具体的取組＞ ・「脳・頸椎」:脳震盪を起こした時の対処と事後ルール ・「心臓」:AEDの設置、AEDの使用方法に関する研修や体験会の実施 ・「熱中症」:WBGT温度計の設置、WBGTを活用した熱中症対策 ※専門機関が提供している既存ガイドラインを利用 ※種目に関わらず講じるべき対策として推進		けが・病気の予防のための取組の拡充 ＜具体的取組＞ ・スポーツマウスガードの使用など「歯・口腔」を守る対策の普及 ・競技ごとの安全対策ハンドブックの配布など対策の普及 ● 最新の状況を踏まえたガイドライン等への更新 ● 新たなルールの作成 ● 関係機関との共同研究	
	現場の体制構築のための連携	大学・NF・学連・指導者等の優良取組事例の横展開 ＜具体的取組＞ ・チームドクター配置についての大学医学部との連携 ・競技種目ごとの安全対策との連携		チームドクター・トレーナーの責任と権限の確立 大学教育における位置づけの確立	
	指導者の安全に対する意識の向上	指導者ライセンス制度の導入 ※既存の制度の活用を想定 安全やコンプライアンス等に関する指導者に対する研修・講習の実施		優秀な指導者と各大学・運動部活動のマッチング	
事後の対策	事故への適切な対応	応急対応に関するガイドブック・ハンドブックの作成・配布	応急対応講習会の実施	事故対応アシストツールの開発・提供	
	事故情報の収集・分析・活用	適切な連絡経路構築に関するガイドラインの作成・配布	事故情報報告の徹底 (報告フォームの配布、報告メリットの明確化)	医療研究関係機関との連携強化	
	保険制度の活用	基礎的保険への加入状況の確認	重篤事故関連のリスク情報分析	既存保険をカスタマイズした段階的な保険商品の整備	

10

事業・マーケティング委員会が取り組む事項（案）

役割	日本版NCAAの具体的取組			
	← 短期			長期 →
● 大会の活性化 ● コミュニティ形成 ● 地域連携 ● 資金獲得 ● 大学スポーツ全体のブランディング等	大会レギュレーション機能	大会日程の調整	試合会場（ホーム＆アウェイ方式）の促進	
		競技横断的大学対抗戦の推進		
		大会の共催		
	個別データの管理・活用	情報収集・データベース化・共有	プラットフォームの構築・活用	
		大学スポーツの収益等に係る調査・分析業務		
	シェアードサービスの提供	チケット・グッズ等販売の共通サイトの構築		
		肖像権の管理や会計ルールのガイドラインの整備		
		各大学の取組の優良事例等ノウハウの共有		
	その他	● インターンの受入 ● スポーツビジネスコンテスト	インターンの単位化	
		プロフェッショナルな人材の登用		

日本版NCAAの初期的コストシミュレーション

【シミュレーションに当たっての前提条件】

- 200大学・40学連が加盟することを仮定
- 事務局人員数については、英国の大学スポーツ統括組織であるBUCSを参考にした。
- 一人当たりの人件費は422万円と仮定(国税庁:「平成28年分民間給与実態統計調査結果」における”一人当たり平均給与”の金額)
- 事業運営に伴う費用については、人件費と同額と仮定(日本体育協会の事業計画における管理費に占める人件費とそれ以外の経費の割合を参考)

想定事務局人員		コストシミュレーション	
学業充実委員会 (学生支援プログラムの作成、ガイドラインの作成、情報収集・分析)	8人	人件費	1億0,550万円 (422万円×25人)
安全安心・医科学委員会 (学生支援プログラムの作成、ガイドラインの作成、情報収集・分析、 産学共同研究及び医科学研究の支援)	8人	事業運営費	1億0,550万円 (人件費と同額)
事業・マーケティング委員会 (体制整備、学内整備支援、データベースの構築、シェアードサー ビス、大会運営支援(大会共催)、地域貢献活動の支援等)	9人	合計	2億1,100万円
合計	25人		

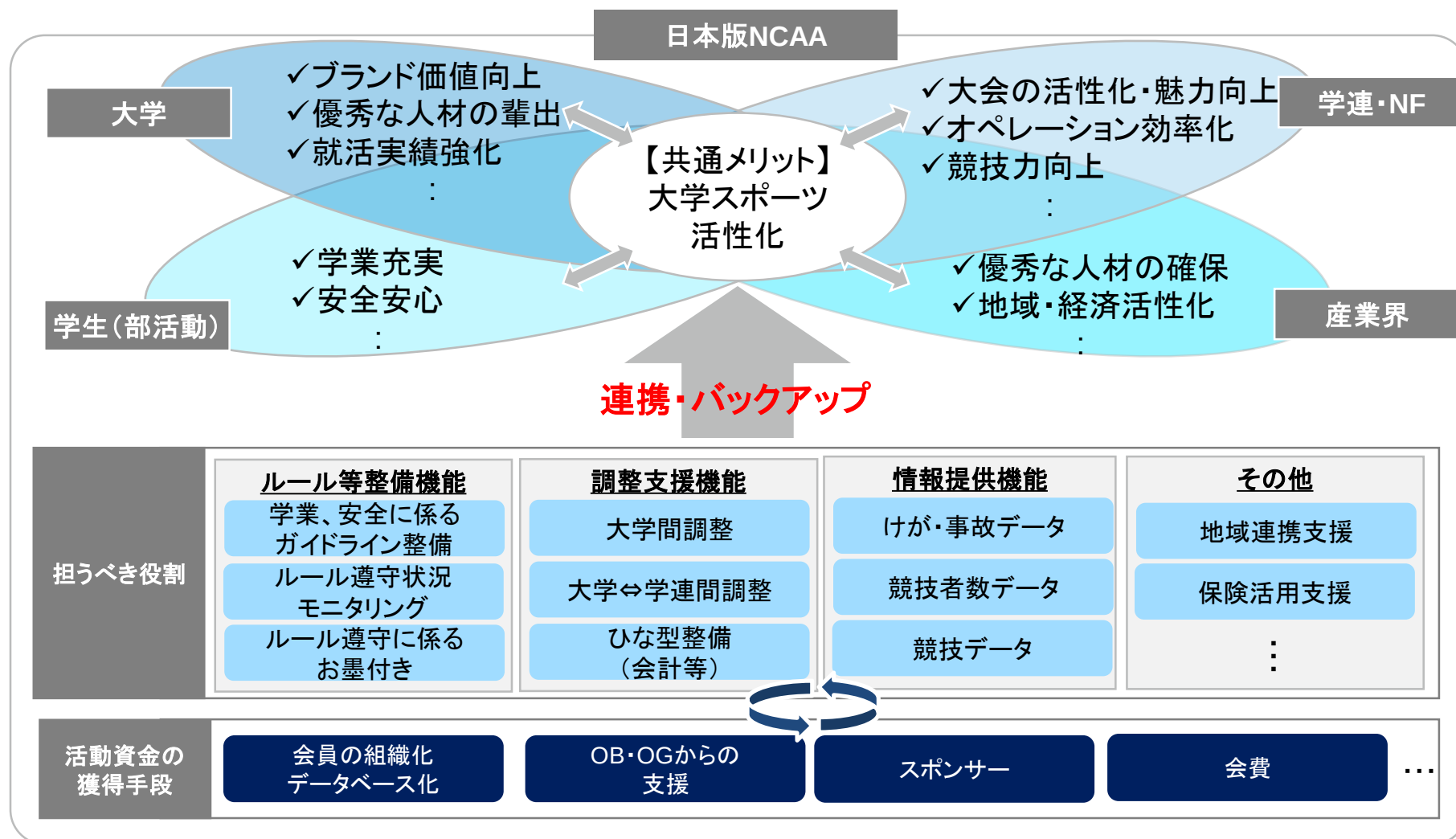
※ 20名(BUCSのスポーツ開発・国際プログラム・データベース構築・マーケティング・コミュニケーション部門の合計人員数)／BUCS加盟校数170×日本版NCAAの加盟想定大学数200≒25名

【収入について】

- コストは新組織に加盟する団体の数によって事業規模が異なり、本シミュレーションにおいては、最低でも2億円以上のコストがかかることが想定
- 日本版NCAAの自立的な運営のためには、会費収入だけでコストを賄うことは現実的ではないため、スポンサーの獲得等や日本版NCAAとしての事業の企画・立案を引き続き検討していく。

日本版NCAAの役割・機能とメリット

日本版NCAAはルール等整備機能、調整支援機能、情報提供機能等を担い、関係者の取組の連携やバックアップ支援を行うことにより、大学、学生、学連・NF界等の関係者が多様なメリットを享受できるものとする。



日本版NCAA創設に向けた今後の進め方（予定）

平成30年3月26日 第3回学産官連携協議会の開催

- 議論のとりまとめ

平成30年春頃 日本版NCAA(仮称)設立準備委員会の委員公募開始

- 日本版NCAA(仮称)の設立の母体となる大学・学連等を公募

平成30年夏頃 日本版NCAA(仮称)設立準備委員会を立ち上げ

- 日本版NCAA(仮称)設立準備委員会を創設し、設立に向けた準備を進める
(具体的作業)
 - 定款及び事業計画の作成、団体登記
 - スポンサーの獲得
 - プラットフォームの形成に当たり、共有化すべき情報の検討
 - ガイドライン策定等に当たっての大学スポーツの実態調査 等

平成31年春頃 日本版NCAA(仮称)創設